

2022.07.10. クリスマンへの3つの重要な質問

ヤコブの手紙4章11章~17節

JD ファラグ牧師

今日は、主の御心なら、「ヤコブの手紙4章」を学び終えたいと思います。聖書箇所は11節から17節です。読みますので、ここにいらっしゃる方はご起立くださいますか？ オンラインで視聴の皆さんも歓迎します。ヤコブが聖霊によって書いてます。11節、

ヤコブ 4

11 兄弟たち、互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟について悪口を言ったり、さばいたりする者は、律法について悪口を言い、律法をさばいているのです。もしあなたが律法をさばくなら、律法を行う者ではなく、さばく者です。

12 律法を定め、さばきを行う方はただひとり、救うことも滅ぼすこともできる方です。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。

13 「今日か明日、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をしてもうけよう」と言っている者たち、よく聞きなさい。

14 あなたがたには、明日のことは分かりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れてそれで消えてしまう霧です。

皆さん、どうですか？ 今のところ大丈夫ですか？ もうすぐ終わりますよ。

15 あなたがたはむしろ「主のみこころであれば、私たちは生きて、このこと、あるいは、あのことをしよう」と言うべきです。

16 ところが実際には、あなたがたは大言壮語して誇っています。そのような誇りはすべて悪いことです。

17 こういうわけで、なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です。

ご一緒に祈りましょう。この御言葉を理解できるよう神に祝福をお願いしましょう。

愛する天のお父様。私たちはあなたの御前にへりくだります。主よ、私たちはあなたに心を捧げます。そして、あなたに集中したいのです。そのために、内住する聖霊に可能にさせていただきたいのです。なぜなら、あなたが私たちの注意を引き、保ってくださいられない限り、今日、御言葉の中であなたが示そうとされている御心を見逃してしまうからです。そして、今日の御言葉は、明らかに強力な重要な聖句です。主よ、あなただけが御出来になられる通り、いつもご忠実であられ、私たちの人生に聖霊の静かで小さな声で語りかけてください。そうなさる時、あなたはとても優しく、とても愛情深く、とても親切で、とてもご忍耐下さいます。主よ、そのことをあなたに感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今朝、私たちの前にあるこの御言葉を教えるにあたって決めたのは、私たちクリスマンへ3つの重要な質問を投げかける事です。特に、キリストにある兄弟姉妹をどのように扱うか、また私たちの家ではないこの世での自分の生活をどのように捉えるかという深刻さに関連します。私たちはある意味、この世が私たちの最終目的地で、しばらくはここにいるだろうみたいに思い込んでいます。ですから私たちは、あらゆる長期的な計画を立てることに、躍起になります。計画を立てることは悪いことではありません。しかし、ヤコブは、、皆さんにこのことについて、使徒ヤコブに感謝し出してほしいのですが、彼は歯に衣を着せません。つまり彼はただ、真正面からぶつかってきます。

「あなたがたは傲慢で、自分はこうするんだ、ああするんだと考えて、そのため自惚れて計画を立てている。あなたたが気づいていないのは、あなたがたの人生は…」翻訳によっては、、誰かを指さしてごめんなさい。わざとではありません。「あなたがたの人生は霧のようなもの。パッと消えて終わり。」それがあなたがたの人生です。それが私たちの人生です。このことについては、「聖書預言・アップデート」でも少しお話ししました。この本文から、なぜこんにちの教会がこの終わりの時に腑抜けなのか、私自身も含めて、特にたぶん私自身がよく理解できるようになることが、私の望みで祈りです。なぜ教会がこれほどまでに無力で、世に影響を与えないのかという疑問に対する答えがあると思います。実は逆に、世が教会に影響を与えていて、教会は世に影響を与えていません。世が教会に影響を及ぼしています。それがなぜなのか、少なくとも部分的に答えが見えてきたと思います。そこで、今日は3つの質問を用意しました。聖霊に私たちの心を探っていただき、私たちの中に、主を知り、主を愛し、主に聞くことを妨げるものがないかどうかを見ていただきたいと思います。なぜなら、主が語られるとき、声を荒げられることはありません。私たちの注意を引く声はたくさんあります。そういませんか？ 主が語られるときは、静かで小さな精練された鋭い御声です。箴言(25:15)の「柔らかな舌は骨を砕く」を考えます。誰かがあなたに大声で叫ぶとき、、私がやってしまうのですが、取り組んでいますよ。主が私に取り組んでくださっていると言うべきですけど、しかし、誰かがあなたに向かって叫ぶとき、無視しちゃいますよね？

でも、誰かがささやいたら、あなたの注意を引きます。かなり古いCMですが、使うと歳がバレますけど、シャンプーのCMだったと思います。こんな感じで始まり...笑わないでください。まだ何も言ってませんよ。こんな風に始まるんです。「誰かに注目されたくない？」(囁き声)それは主がなさることです。主は私たちの注意を引かれたいのです。高校時代、ボウマンという先生がいました。授業初日のことあ～なんということ。そういう人、もしあなたがそういう人なら、私たちは愛します。神の祝福を。あなたのようにになりたいですよ。でもその声は、落ち着いていて、癒され、物静かで、物腰が柔らかいと言いますか、それがボウマン先生でした。彼は単調に、非常に小さな声で話しました。「ではクラスの皆さん、時間です。席についてください。」叫ぶのは私に任せてください。「へ～イ、もっと大きな声で話してよ～。聞こえませ～ん！」それは間違いでした。-(笑)-

先生の返事は、「いいえ。私の話を聞きたいなら、これが私の話し方、私の喋り方です。私の話を聞きたいなら、あなたが静かにしなさい。」私たちは、忙しくてストレスの多い生活の音量を下げれば、良いと思うのです。そうすれば、主が語られる静かで小さな声を聞くことができます。それを考えながら今日は進めたいと思います。まず、11節の最初の質問からです。「自分は他人を誹謗中傷していないか？」またここで例のごとくヤコブは、大いに必要な聖なる御力で、私たちがキリストにある兄弟姉妹として、他人を中傷してはならないと書いています。その理由は、そうすることは律法に逆らい裁く事であり、律法を裁く者は、律法を守らない者だと説明しています。言い換えれば、私たちはあたかも、自分を裁判官として位置づけ評決を下しているのです。そして私たちは、ありとあらゆる方法で人を誹謗中傷します。

あえて言えば、こんにちクリスチャンが毎日、ソーシャルメディア上で、あらゆる方法でしています。何が悲しいかという、世はすべての投稿を見ているのです。そして彼らは、あなたが公言するクリスチャンだと知り、事実、あなたは福音を伝えようとしてなぜか失敗し、そして彼らはあなたが誰かについて投稿したのを見ます。私はよくこの質問をします。ある意味修辭的かもしれませんが、私が問いかける質問、自分自身にさえも問いかけこの点、非常に気を遣っています。自分が中傷したばかりの相手に、どうやってイエスを分かち合えます？ もう一步踏み込む必要があるかもしれません。皆さん同意されると

と思いますが、もし誰かが他の人を誹謗中傷したら、その人は、あなたのことをも陰で誹謗中傷していると思われるべきです。ソーシャルメディアの話に戻しましょう。これは大きな問題です。ソーシャルメディアへの投稿ひとつひとつが... 何なのか分かりませんが、私は、自分自身に話すべきかもしれません。私が主においてまだ若く、初期の頃、もちろん当時はもっとエネルギーがあったのですが、「良い戦いがしたい。さあやるぞ!」と。しかし、私たちが気づいていないのは、戦いに勝っても、その人をキリストに導く機会を失ってしまうということです。もう一度言いますが、世はクリスチャンを、非常に注意深く見ていることを理解しなければなりません。使徒パウロは、私たちは、生きた書簡であると語ります。その意味が分かりますか？ 私たちは生きた手紙なのです。人々は、私たちの人生の手紙/投稿を読んでいます。彼らは何を読んでいるのでしょうか？ どんな風に読まれるのでしょうか？「ヨハネの福音書 13 章」、皆さんご覧ください。よくご存知の 2 節を読みます。イエスが語っておられます。

ヨハネ 13

34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

そして、こう仰います。35 節、

35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。

アウイ、マウイ... (韻を踏んでいます) あ痛っ! ちょっと待って。

「つまり、人々が私がイエスの弟子であることを知るのには、互いに愛し合うことによってですか？」そうです。「車の後ろに付けている、クリスチャングッズではなく？」私は付けていませんよ。

「聖書の大きさとか、使い古した感じとかじゃなくて？」違います。

「私がイエスの弟子であることを、彼らはどうやって知ることができるの？」互いに愛することによってです。ここがポイントです。

ところで、サタンが、皆さんや私よりもこの聖句を知らないとは、一瞬たりとも思わないでください。私たちがイエスの弟子であることが分かるためのリトマス試験が、互いに愛し合うことなら、敵は、互いに愛し合う代わりに、互いに中傷させたいのが当然ではないでしょうか？ ふむ... どおりで、教会に誘うたびに、彼らが丁重にその誘いを断るのは、そういうことなのでは？ ちなみに、牧師が誰だからという事でもありません。ですから私のせいではありませんよ。—(笑)— 「私は行かない！その教会のことは聞いたことがあるもん。」—(笑)— その理由を教えましょう。誤解のないように言いますが、私は..... 主は私の心を知っておられます。個人的な経験から話します。私は第一にクリスチャン、第二に牧師ですよ。いつも牧師なわけではありません。彼らは言います。

「ほら、私はあなたの人生を見ています。あなたがどう行動するか、何をするか、また今の時代は、あなたの投稿も見ます。率直に言って、私には興味がありません。私が答えて欲しかった質問が 2 つあったのですが、あなたはそれに正しく答えなかったから。私が一番に知りたかったのは、あなたが、本物かどうかです。」

教会について話したり、誰かを教会に招いたり、クリスチャンについて話したとき、人々が一番に言うことは何でしょうか？「あ〜、教会は偽善者ばかりだ！」それに対して言うのは、「はい、もう一人いてもいい。いらっしゃい！」—(笑)— ちょっと面白く言ってみました、でも、彼らは正しいですよ？彼らが本当に求めているものは何か、分かるでしょう？彼らが本当に求めているのは、「あなたは本物

ですか？それとも、あなたも、言う事と行動が一致しないクリスチャンの一人ですか？ 私が今まで知っているクリスチャンはみんなそうでしたから。つまり、私は、あなたが本物であって欲しいのです。本物であってほしい。」

それが最初の質問です。2つ目の質問は何か？「効果があるのか？」

彼らは私たちの人生を見て、生きる人生の書簡として読んで、彼らは、「わお～、それって...聞いて。私は自分の問題で十分です。それがあなたに効果がないのなら、結構です。」

考え違いしないでください。彼らはあなたが本物なのを望んでいて、彼らは私が本物なのを望んでいます。効果があるのを望んでいるのです。私が本物ならば、彼らも本物になれるからです。そして、もし私に効果があるなら、彼らにも効果があるし、彼らに効果がある事が必要で、彼らはそれが効果があり本物であることを切実に必要としていて、それが彼らの唯一の希望だからです。そして、すべてはこの "愛" というひと言に集約されます。使徒パウロは、コリントの人々へ手紙を書いて、コリント人を叱責しています。私たちは、「第一コリント人への手紙 13 章」を愛の章と愛称しますね。結婚式には、「愛は・・・、愛とは・・・。」この章は、自分たちが全てだと思っていたコリント教会への叱責だと気づいていますか。

「あ～、私たちはこんなにも愛に満ちた教会なんだぞ～。」「私たちは誰でも歓迎します。私たちは誰もさばきません。」「ありのままの自分で来てください。好きなようにしてください。」ただ、席を埋める。

彼らは、教会内の性的不道德を容認しながら、愛に満ちていると自惚れていました。

「ねえ、私たちはただ、みんな愛しているんだから～。」パウロは言います。「それは愛ではありません。それが愛だと思うのですか？ 違う。それは愛ではありません。愛というものはこうです。」

そしてパウロは、すべてを列挙します。根本的にイエスの御名を持って、、、この名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていません。(使徒 4:12 参照)

イエスの御名を一番に置くのです。自分の名を置いてはいけませんよ。先に進めませんよ。私は最初のもクリアできません。皆さんもですよ。私を霊的に見ないでください。そのひとつひとつの前に、イエスの名を置くのです。それが模範であり、基準です。ちなみにそれが源でもあります。皆さん、34 節で分かるかどうかですが、イエスは仰いました。「あなたは互いに愛し合えます。」どうやって？「わたしがあなたがたを愛したように」それが源です。そう、イエスが私に対してあられる愛であなたを愛さない限り、私はあなたを愛することができないのです。イエスは私を愛してくださっています。私のことが大好きでもあられます。「好き」という言葉が「愛」という言葉よりパンチがあるなんて、悲しい時代になったものですね。聖霊がヤコブにこの文章を書かせられた理由は、当時、多くの中傷があり、さばいていたのでしょう。12 節。

2つ目の質問です。「私は隣人をさばいていないか？」

きっと皆さん、こう言うのを聞いたことがあるか、あるいは自分で言ったことがあるのでは？「私を裁かないで。」「あなたは私を裁いてはいけません。」というのは、実はこの「ヤコブ書」に基づいています。しかしながら、ヤコブがここで言っているのは、「隣人を裁くとき、心の動機を判断しながら、実は神のなさる事を横取りしている。」という意味です。さっと言わせてもらいますが、これは決して、私たちが外見的な実に関して、正しい健全な判断、見極めを持たない意味ではありません。

キーワード：外見 私たちは外見を見て、外見に基づいて判断します。問題は、私たちが内面、つまり心を判断始めるときです。神だけが心を見ておられるのです。神だけが心をさばくことが御出来になります。心の動機をさばくことが御出来になるのは、神だけです。そしてここでは、私たちが人の心の動機を

さばいてしまっているという意味です。どうやって分かるんですか？ 聞いてください。皆さん、素晴らしく見えます。外見的に。私たちにはそれしか見えないからですよ？ 今、隣の席の人を見てはいけませんよ。しかし、主はそうは見えておられません。主はここ（心）にあるものを見ておられます。人間は外見を見ます。だからサムエルは、啞然としたのです。彼には、エリアブがサウルの後を継いでイスラエルの王となる者ではないことが、どうしても見抜けなかったのです。実は、エッサイの息子は8人でしたが、そこに7人しかいませんでした。油を注がれるはずの者が、そこにいなかったのです。彼はどこにいたのか？ お～、羊の世話をしていました。完璧！！ 彼はどこにいるのか？ お～まさかあの子が...。「彼をここに連れて来なさい！ 座ってもいけない。ハイドロフラスクから飲んでもいけない。」—(笑)— 私はその時の様子を現実的にしようとしています。「今すぐ、彼をここへ連れてくるまで。」それで彼らは行って、ダビデを連れて来ました。(第一サムエル 16:11~12 参照)

多くの人が、ダビデは10代だったと信じています。ダビデが来ました。赤毛でハンサムな男の子。小僧です。羊の臭いがします。ボロボロで、汚い。近づいて来ると、サムエルは「彼??」と...。彼は主に尋ねると、主は、

「サムエルよ、あなたは外見で判断している。人は外見で判断するが、わたしは心を見る。」

(第一サムエル 16:7 参照)

「この子は、わたしの心に従う心がある。彼が、油注がれ王となる人物だ。」私たちは、外見で判断してしまいます。聞いてください。自分の心に、正直にならなければなりませんよね？ 私たちは、乗っている車や、着ている服で人を判断してしまいます。違いますか？ 私たちは外見で判断します。心の中を知ることはできません。神だけが知っておられます。裁くお方である神を侵害し、自分を人の心を裁くよう位置づけるのは、なんと傲慢なことでしょうか。あなたにはできません。外見を見て、ことわざのように「風呂場で赤ん坊を流さないで！」(大切なものを無用なものと一緒に捨てること)

ところで、なぜこのことわざを考えたのか、不思議です。実際そんなことをする人がいるんですか？ 恐ろしいです。脱線しましたね。すみません。「マタイの福音書7章15節」、再度、イエスが語っておられます。「マタイの福音書7章15節」からです。

マタイ 7

15 偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、“内側は” 貪欲な狼です。

じゃあ外見しか見ない私たちが、どうやって内面が分かるのでしょうか？ お～、よくぞ聞いてくれました。今すぐその質問に答えます。

16 あなたがたは彼らを実によって見分けることになります。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか。

17 良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。

18 良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。

19 良い実を結ばない木はみな切り倒されて、火に投げ込まれます。

20 こういうわけで、あなたがたは彼らを実によって見分けることになるのです。

私の見方、言い方はこうです。見えない根っこの部分を知りたいですか？ では、目に見える実を見てください。木に近づいて...私たちがここに引っ越してきた頃、すごかったです。今でも、とても感謝しています。私たちは時に、この島の美しさを当たり前だと思うことがありますが、でも、この木々や木に実っ

た果実を見てください。マンゴーの木に近づいて、そこにリンゴがぶら下がっているのが、想像できますか？ 何かがおかしい。聞いてください。いいえ、皆さん知っています。「なぜマンゴーの木だとわかるの？」実を見ればわかるでしょ。だ〜！（今さら何を言ってるの）あの木を見れば、マンゴーだってことは知っています。ということは、根が見えていなくても分かるということです。よし！ 外見的に判断できます。しかし内面の心は見えません。それは、心の中から出てくるのです。口から出ることは、心の中にあるものが出て来ます。（マタイ 15：18 参照）

汚れた思い、そうなったら、もう私はおしまいです。もしも、○□▲○■△.....いや、気にしないでください。ー(笑)ー 口に出るものが私を汚すのなら、私はとっくに終わっています。そうじゃなく、何が出てくるかです。3人の方に伝わってよかったです。口から出るもので、心の中が現れます。実が、根っこにあるものを語る。それがイエスが仰っていることです。使徒パウロは、再度『第一コリント人への手紙 2章 15節』で、これを反復して語ります。

I コリント 2

15 御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、...

繰り返しますが、判断、識別、霊的な識別、外見的にすべてのものを判断し、すべてのものをテストします。

...その人自身はだれによっても判断されません。

誰も救えません。人の心を裁くことができる、神だけです。神だけが人の心を見られるからです。キリストにある兄弟姉妹をどう扱うかは、外見的判断や評価が前提です。私たちは、物事を想定してきました。ちなみにこれが、言わば誹謗中傷の燃料となるわけですが、他人を切り捨てるとき、私たちは自分がその裁判官として構えていませんか。私たちは裁判官で、陪審員で、そして...もう、彼らに判断を下している。私たち既に彼ら进行评估し、有罪の評決を下してしまっています。本当ですか？ ちょっと待って。もし、そうじゃなかったら？ 私たちはとても素早い。だからヤコブは舌について語るのです。その章を学び終えて嬉しくないですか？ 戻ってやりましょうか？ 私はやりたくありません。私たちは舌で個人の人格を暗殺することができる。そして悲しいかな、その姿が、聞こえが、こんな感じです。言ってみれば、大変、狡猾〜〜〜なんです。全部こんな感じです。誰かのところへ行ってみます。「ねえ、あの人のために祈りたいわ。」「何があったの？」「あら、聞いてなかったの？」「聞いてない。何？」彼らをもう二度と同じように見ることはないでしょう。なぜか？ 無実が証明されるまで有罪だからです。

「いやいや、有罪が決まるまでみんな無実だよ。」(皮肉っぽく言う) 勘弁してください。お〜そうであったらどんなにいいか。そうじゃなく、灰めかしが全てなのです。「聞いた？ 夫婦仲が悪いんだって。」彼らがクリスチャン笑顔で教会に現れたら、「あのカップルが来たよ！」(あ〜！ 疑い満点の目で見ると) ちょうどそんな感じです。「結婚生活に問題らしいよ。」(プスプスプスプス.../囁き声) 実話ですが、主よ、いいですか？ 本土で、私の最初に始めた教会で、起こったことです。私と妻の間に問題があると、噂が立ちました。「牧師と牧師の妻が夫婦間の問題を抱えている。」と。今年で結婚して 34 年目です。一拍手ー ええ、ありがとうございます。本当に神に感謝です。私ではありません。皆さん言っておきます。妻は天に大きな宝物を積んでいます。ずっと私に我慢してきたんだから。でも何が興味深いかというと、噂し出して、誹謗中傷し言いがかりをばら撒いてた人が、結局自分が奥さんと離婚しました。それを良く考えてください。ところで...言っておきますと、私たち夫婦は結婚生活に問題はありませんでした。でも、それが問題ではなく、その人物が噂を話した人たちはみんなそれを信じて教会を去っていきました。

「教会に行きたくないよ。自分の問題もあるし 牧師が結婚の問題を抱えていて、今週は結婚について教えるんだぜ。ふざけてるのか？」皆さん、このポイントを理解されるのを願います。キリストにある兄弟、姉妹を誹謗中傷してはなりません。噂話をしない。驚きませんか？ 使徒パウロの書簡で、殺人や性的不道德などの忌まわしい行為が列挙されていますが、その忌まわしい中に「噂話」が入っているのです。待って。何て？「噂話は、殺人などと一緒にされるレベルなんですか？」はい。「そんなに深刻なの？」そう信じた方がいいです。イエスが「マタイの福音書5章」で、皆さん知っていますね。ハードルを上げられます。「汝、人を殺してはならない」と言う言葉を聞いたことがあるでしょう？ しかし、もしあなたが心の中で兄弟を憎み、姉妹を中傷するなら、彼らを殺すことになります。あなたは人を殺しているのですあなたは殺人を犯しています。欲望で見て心の中で姦淫するのと同じです。心の問題です。あなたの心の中には何がありますか？ あなたの心の中を教えてあげましょう。口から出るものは何でも、それがあなたの心の中にあります。この描写が大好きです。また使わせてもらいますね。しばらく使ってません。しばらくご無沙汰していたので、また使っていていいですか？ バケツがあります。そして満タンです。そして、その中に満タンなものが、叩かれた時に出てきます。あなたのバケツは怒りで満タンですか？ 私は調べる方法を知っています。誰かが渋滞に割り込んできて、怒りが出てきたら、それがバケツの中身です。それは自分に言った方がいいですね。告白しましたよ。主よ、私は悔い改めました。主が私の心に働きかけて下さっています。渋滞が私の問題です。でも、もしあなたが叩かれた時、バケツが怒りで満タンではなく、愛で満タンだったらどうでしょう。なぜなら、出てくるものがあなたの……。恐ろしい話ですが、あなたの腹の中に溢れる物が。ここで置いておいて先に進みます。最後の質問、13節から17節です。「私は明日を誇っているのか？」正直言って、私はやや苦戦しました。自分の人生を傲慢に誇るクリスチャンに関するよく知られている一節です。「今日か明日、これこれの町に行き、そこで商売をしてもうけよう。」ヤコブは聖霊によって言います。「そんなこと言ってはいけません。そんなこと言っても、あなたの人生、明日は保証されていないんだから、分からない。あなたは明日の自慢ですか？ 保証されてませんよ。」あなたが話すこと、計画することはすべて「主の御心なら」と前置きすべきです。ですから、この節は一般的に良く知られているのは知っています。でも、私は主を求めて、衝撃を受けたのはこれは本当に神が一番でないクリスチャンと関係があるということです。お付き合いください。ですから、ここに高ぶりや傲慢さがあり、結局のところ、私たちはすでに自分を神と位置づけ、姿勢を正して、自分自身を判断しているのです。それならこうなるのは当然でしょう。言わば、その光景に神はいない。

「ああ、明日はこうしよう、ああしよう。こんな予定があるんだ。」繰り返しますが、計画を持つことは悪いことではありません。その計画に支配されてはいけません。計画はあっても、それをゆるやかに持つのです。私には長期的な計画があります。そういう長期的な計画が実現することは考えていません。御心なら、そう願います。なぜなら、そう、あのラッパが鳴って欲しいからです。その計画が実現するならどうなるか分かりますか？ すべての問題と共に物事が、消えていきます。私の人生には、携挙で解決できない問題はありません。OK。これでだいぶ気分が良くなりました。皆さんもそう願います。でもそう、これがそういう事なのです。

「私はすでに神を侵害し、神の正当な地位から神を排除し、私の人生の御座に裁判官として、神として座って、私が指示する。」と。こうなってしまうのです。ダメです。園（ゲツセマネ）で、懇願するイエスは、その時の言いようのないストレスでご自分の血の汗を流しておられます。全人類の罪を背負われ、涙を流し、血の汗を流し、御父に尋ねられました。「他の方法はないのでしょうか。わが父よ、できること

なら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。イエスは御父に尋ねておられるのです。それから仰います。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」(マタイ 26:39)

お～私たちは神の御心に従わないとき、大きな過ちを犯します。頑固で、傲慢で、強情な私たちは、自分の意志、自分のやり方を主張します。全ては高ぶりです。

「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」(ヤコブ 4:6)

へりくだった者は言いませんか？「主よ、これは私の望みですが、私はあなたが望まれる通りを望みます。私はへりくだり、あなたに委ねます。主よ、あなたの御心が成されますように。私にとって何が最善か、あなたが知っておられるからです。私には何が最善かわかりません。あなたは知っておられます。あなたは初めから終わりを知っておられます。」自分の祈りの生活で思うのですが、神に何かをお願いするとき、天の神がこうであられるのを想像します。「あなたはその祈りに答えてほしくない筈。そのやり方はダメです。悲惨なことになりますよ。」祈るのは構いませんが、最後にこう締めくくった方が良いでしょう。「とはいえ、主よ、私の意志ではなく、御心のままになさってください。」私たちが祈るとき、主を求め、求めるとき、、、真実は、私たちは将来のことを心配しているんですよね？ 私たちは明日のことを心配します。「マタイの福音書6章」です。心配性のあなたへ、誰だかわかりますね？ 私は顔を上げませんが、「マタイ6章19-34節」は心配への治療です。「ピリピ人への手紙4章6-8節」などもそうですね。でも皆さんよく知ってますよね。33節、

マタイ 6

33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。...

確かに、明日を誇ってははいけません。心配することはありません。

...明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。

そんな風に仰ってなかったらいいのに。今仰ったのは、明日の心配は明日にあるという事です。そう仰るまでは大丈夫だったんです。今や明日の心配を考えてしまいます。今、仰いました。「苦労は明日十分あります。明日の心配は、明日起きたらそこにあります。でも今日は心配しなくていい。」そう仰るのに、どうすれば今日、それを心配せずに済む？ こんなのはどうでしょう？ これ、聞いたことあって、心に残りました。私はこれで助かりました。あなたが心配性なら、あなたの助けになるのを願います。今日は、昨日心配した明日です。その辺り、あなたの判断にお任せします。今日は、昨日凄く心配してた明日です。彼らが発見したことを知っています？ "彼ら"が誰であろうと。いつか "彼ら" に会ってみたいものですが。いつか彼らは自己紹介をしに来て言う。「私の名前は"彼ら"です。」「あなたが？まさか！あなたが"彼ら"？」とにかく、、、OK。彼ら曰く、心配事の95%は起こらない。さて何人かの方は、全く助けにならないとお思いでしょう。「それだと95%しかないので、残りの5%はどうなの？」[笑]

私はあなたで、あなたは私ですから分かります。私はこの分野で博士号があります。-(笑)-

OK。素晴らしい。神を褒めたたえます。「心配することの95%は起きないから心配しないこと。」

あとの5%は？ お～、あとの5%は、あなたが頭で想像しているほど、決して悪いことではありません。そして、それが起こる時神の恵みが十分あります。実は、さらにもう一步踏み込むと、その5%について個人的な経験から言いますが、実際に起こった時、「おお～～～！！」と思います。そして、神の御手、神の御業、神の愛、神のご計画を見たとき、あなたは思うのです。「お～素敵～～！！」「神様。これ素晴

らしいです。」「あなたに言ったでしょ。どうしてわたしを信じないの？ わたしがするのですよ。」
私たちの問題は、自分の望む方法で神が、解決して下さるのを望んでいる事。そして神は仰います。「そんなやり方はしません。」 どうですか？

「なぜなら、あなたがたの道はわたしの道ではなく、わたしの道はあなたがたの理解には高すぎるからです。」(イザヤ 55：8-9 参照)

どうして私たちはこうも簡単に、神を排除し、自分自身をその立場に置いてしまうのでしょうか。どうしてこうも簡単に高ぶるのでしょうか？ まるで鉄と磁石みたいに。お決まりなのです。それが罪の性質です。そして、それを克服する唯一の方法は、私たちに内住する聖霊の御力です。皆さん知っていますね？ 聖霊の実、、、賜物ではなく、聖霊の実：愛、喜び、平安、親切、柔和さ、に、に、に、忍耐(寛容)。

(ガラテア 5：22 参照)

その件で証人をお願いできますか？ そして自制。柔和。では、謙虚さはどのようにして生まれるのでしょうか？ 謙虚さは聖霊によってもたらされます。謙虚さを装うことはできません。試せますよ。でも人は見抜きます。試すと、、、私は個人的な経験から言います。チームのためにします。良いですか？ 私が謙虚さを装ってみても、自分の謙虚さを誇りにしています。私は自分の誇りについて、非常に謙虚です。うまいこといきません。それは聖霊から来るものでなければなりません。クリスチャンが謙遜になる唯一の方法は、聖霊が彼らに宿り、彼らを可能にし、なれるよう御力を与えてくださることです。

新約聖書のヤコブ書を旧約聖書の箴言にたとえた表現を聞いたことがありますか？ そう、「箴言 27 章 1 節」がその理由の一つです。

箴言 27

1 明日のことを誇るな。(その理由は?) 一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないのだから。

最後に「伝道者の書 7 章 14 節」で締めくくりたいと思います。神は私の人生の中で、長年にわたってこの聖句を力強く用いてくださいました。それでかなり一転しました。言わば、かなり人生が一転、と言えました。ソロモンが書いています。

伝道者 7

14 順境の日には幸いを味わい、楽しみなさい。

物事は順調。主を褒めたたえます。「今のうちは、、、」そんなことは書いてませんが、喜び、謝らないで。神はあなたを祝福し、あなたを繁栄させておられる。楽しみなさい。喜び、主を褒めたたえましょう。しかし、おっお～

...逆境の日にはよく考えよ。

翻訳によっては、「逆境に立たされた時」と訳しているものもあります。私はそれが好きではないので、その翻訳を引用していないことに留意ください。「その時」と書いてあるから。もしもたまたま、偶然、逆境に見舞われたら、ではなく。いいえ。逆境に見舞われる時。「よく考えよ。」って何を？「神は一方を他方同様にお作りになった。」のを考えよ。繰り返しますが、翻訳によっては、「神は逆境と一緒に順境をもたらされる」と訳しているものもありますね。神は両方をお許しになる。神は順境を許され、神は逆境を許される。なぜ神はそんなことをなさるのか？

答え：「...これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。」

そう、こういう仕組みです。私がこう言うと、皆さんこう思うでしょう。「あなたはこう生き、私はこう生きる。」物事がうまくいっているとき、私たちは何ともリズム、調子に乗って、こういう考えになって

しまいます。「へ～い！いつもいいことがあるぞ。明日はいいことがありそうだ。ねえ、これこれの街に行って、こんな商売して、お金儲けしてみようかなあ、物事が上手く行ってるし～」神はこんな風です。

「そうなの？じゃあ、あなたには未来が分かるのですか？ わ～わたしだけが分かるのだと思ってました。あ～、今やあなたは、全知全能で、偏在できるのですね。わたしは必要ないのでは？ 終わったら教えてね。」

いいえ、主は順境と共に逆境をもたらされます。なぜなら主だけが明日のことをご存知だからです。決まり文句ですが、本当にその通りです。私たちには、未来がどうなるか分かりませんが誰が未来を握っているかは分かっています。ということは、私たちが知らないときに知っている方のところに行き、全知全能でご存知な方にこう言うのが、理にかなっていませんか？

「主よ、明日のことはあなただけがご存知です。ですから、私はあなたにこれを願いますが、最終的には、あなたが神だから、あなたが決められることです。私じゃありません。」

すべての歴史、人類の歴史における2つの普遍的真理。言いますよ。

真理その1：唯一の神が存在する

OK？よろしいですね？

真理その2：あなたは神ではない。

OK。大丈夫ですか？

神のみぞ知る、です。私たちには分からない。私たちの命は、霧や水蒸気に過ぎません。明日の保証はありません。注意し、気をつけましょう。祈り、謙虚でありましょう。そしてこれが良い機会だと思うので、最後に、この教会にお礼を言います。ここは愛に満ちた教会です。ここは愛のある教会です。もし誰かが入ってきて、噂話をしたり、陰口を言ったりしたら、長くはいられません。この教会は愛に溢れていますから。この教会は本物です。本土から訪問される方が来て、彼らと話す機会があるときに、それを聞くのが好きなんです。彼らは私に言います。「ここは愛のある教会ですね。」私はこんな感じです。（うんうんと頷いて）ここが私のへりくだりへの誇りです。「はい。分かっています。」後ろに稲妻が落ちてきませんか？ でも私はこう言うんです。「私がこの教会の牧師でなかったら、ここが私の行く教会です。」

ちなみに、本音ですよ。主が私の心をご存知です。この教会は愛に満ちた教会です。皆さんが互いに愛し合っていることを感謝します。そうすることで、私たちが本当にイエスの弟子だと世間が知るからです。ありがとうございます。愛のある教会であることに感謝します。くれぐれもご注意ください。敵が、内部から分断し始めようと考えてはいないだろうとは一瞬たりとも思わないで下さいね。敵は教会を外から破壊することはできません。内からの分裂でないとならないのです。誹謗中傷。ゴシップ。噂話。偽りの非難。人の人格を暗殺。外見での判断。自惚れ、自分を神の場所に位置づけること。それは神のみぞ存知です。神にさせていただくのです。ご起立ください。祈りで締めくくりましょう。カポノ、上がってきてください。

天のお父様。本当にありがとうございます。

主よ、あなたは知っておられました。私たち夫婦がここに来る前から、この教会があること、この人たちがいることをこの兄弟姉妹を。

主よ、私はあなたに感謝します。強い文章ですが、ここには必要な強さがあります。そして、私たちにとってありがたいことに、たぶんそれが先制攻撃で、予防なのかもしれません。

しかし、主よ、私たちをこのようなことからお守りください。「なんと、彼らは陰口を言い、互いに噂し

合っていることか。」と言われる者の中に私たちは数えられたくありません。

そのかわり、主よ、私たちが、「なんと、彼らはお互いに愛し合っているのでしょうか。」と言われるように。

主よ、ありがとうございます。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7